

「越前蟹と水仙の文学コンクール」入賞者・大賞作品

テーマ
かがやき

令和7年度「越前蟹と水仙の文学コンクール」では、詩部門に356編、俳句部門に3,120句の作品が寄せられ、両部門の68名の受賞者が決定しました。長きにわたり皆様に愛され、育まれてきた「越前 蟹と水仙の文学コンクール」は、今回で最後となります。26年の間、多数のご応募をいただき誠にありがとうございました。

俳句部門（小学生の部）

大賞

越前小学校 五年 長谷陸 杜

「かにの時期つらいときでも船を出す」

優秀賞

越前小学校 五年 山口 真央

奨励賞

朝日小学校 一年 山田 美桜

佳作

織田小学校 三年 河上 悠一郎

越前小学校 一年 長田 幸樹

越前小学校 一年 小酒 楓真

俳句部門（中学生の部）

優秀賞

宮崎中学校 一年 山田 茜

奨励賞

越前中学校 二年 濱野 結衣

佳作

越前中学校 三年 道前 拓巳

宮崎中学校 二年 金巻 太士

朝日中学校 三年 荒木 梨杏

俳句部門（高校生の部）

大賞

日本大学第二高等学校 二年 高岡 奈央

「鉄の音蟹の故郷は時化の海」

優秀賞

駒込高等学校 二年 篠崎 勇智

奨励賞

須磨翔風高等学校 一年 大矢 結依

佳作

須磨翔風高等学校 一年 藤本 哲平

日本大学豊山女子高等学校 二年 大和田 小巴音

丹生高等学校 一年 古崎 愛実

俳句部門（一般の部）

大賞

福岡県北九州市 佐藤 節美

「退職の夫待つ卓のせいこ蟹」

優秀賞

福井県福井市 松島 可奈

奨励賞

熊本県熊本市 坂本 英之

佳作

新潟県新潟市 長谷川 誠

長野県安曇野市 穂刈 よう子

福井県越前市 安野 龍城

詩部門（小学生の部）

大賞

朝日小学校 六年 高山 京

「光」

まだ暗い

まだ暗い闇の中

まだ咲かない

まだ咲いてたまるか

水仙は光を待つて、最高にきれいな花を

咲かすんだ

ぼくだってそうだ

光がないとかがやけないんだ
ちよっとだけ光がほしいな
優しい光をもらえると
ぼくは最高にかがやけるんだけどな
準備はばっちり

優秀賞

朝日小学校 六年 杉山 麻緒

奨励賞

愛媛大学教育学部附属小学校 二年 若狭 早

佳作

朝日小学校 六年 来田 菜音

朝日小学校 六年 宮川 千鶴

越前小学校 六年 川上 翔瑠

詩部門（中学生の部）

大賞

朝日中学校 一年 原 菜摘

「呼鳥門」

ここから見える門は

私たちの未来の扉だよ

っていつているみたい

だって向こう側がとも輝いているもの

ここから見える朝日は
これからの未来のかがやきだよ

越前町漁業協同組合長賞 俳句部門（一般の部）

茨城県水戸市 久信田 史夫

詩部門（一般の部）

石川県金沢市 中田 朋樹

越前町観光連盟会長賞 俳句部門（一般の部）

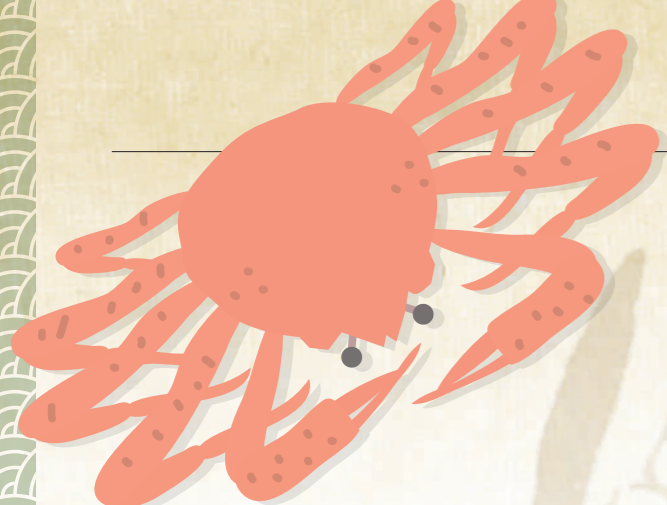
埼玉県さいたま市 岸 保宏

詩部門（一般の部）

兵庫県姫路市 長谷川 餅夫

※該当の無い賞については省略しております。

問合せ先 生涯学習課 ☎342000



佳作
越前中学校 三年 森川 亜莉碧
朝日中学校 二年 高木 蘭
朝日中学校 一年 高野 真菜美

優秀賞

朝日中学校 二年 渡邊 心咲

奨励賞

朝日中学校 二年 吉田 理人

詩部門（高校生の部）

奨励賞

伊丹北高等学校 二年 三宅 由衣花

佳作

北海道旭川東高等学校 三年 菅原 幸倫

福井商業高等学校 一年 山本 穂乃花

詩部門（一般の部）

大賞

福井県越前町 山岸 理佑

「光のくちぶえ」

水仙が咲くころ、母はいつも歌を口ずさんでいた。

祖母から教わったという、海鳴りのような小さな歌。

崖の上の畑で風に吹かれながら、

黙って水仙を束ねる母の背中。

その手のひらで、白と黄色の花が

朝の光を吸い、ひかり出す。

海が荒れる冬には、遠くに波の花が咲いた。

あの白さは、花というより叫び声のようにも聞こえ、

ときに懐かしいささやきにもなった。

港に灯がともるころ、

茹で上がった越前がには、湯気の中で赤く燃えていた。

箸をあてると、ほろりと崩れる熱い身。

指先に伝わる確かな命の熱さ。

福井県農業協同組合長賞 詩部門

越前小学校 三年 濱野 颯亮
朝日中学校 二年 吉田 來稚

越前町商工会長賞 俳句部門

愛媛大学教育学部附属小学校 二年 若狭 早
朝日中学校 三年 長谷川 陽愛

佳作
神奈川県川崎市 下谷 茜
埼玉県滑川町 加藤 雅水
東京都世田谷区 加藤 乃梨佳

奨励賞
宮城県仙台市 八巻 孝之
佐賀県唐津市 古賀 由美子

優秀賞
その夜も、障子越しにかすかに聞こえる母のくちぶえ。
やさしいその音色に導かれ、
わたしの心の中で、水仙と波の花と蟹の赤が、
とけあって、まばゆい光を放つ。
今も胸によみがえる、あのくちぶえは
風の中、光の中、
この越前の冬を照らす、一番美しいかがやきだ。



▲受賞式典の様子